



縄文

THE
TREES OF
JOUMON
の



第11号

2022, 1.1

水子貝塚公園・水子貝塚資料館ニュース

水子貝塚資料館

検索

資料館 HP
QRコード



編集・発行：水子貝塚資料館

☎ 049-251-9686

〒354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003-1

FAX 049-255-5596

水子貝塚の土器からエゴマ？の圧痕発見！

水子貝塚で見つかった縄文土器の表面をよく観察すると、形の整った円形や楕円形の小さな穴が確認されることがあります。

この小さな穴の正体を肉眼で見極めることは難しいため、シリコンで穴の型を取り、それを現生標本と比較して、特定・判別します。これは圧痕レプリカ法といい、多量の土器片を1点1点つぶさに観察して圧痕を型取りし、それを顕微鏡で確認するとても地道で時間のかかる作業です。

この研究により縄文土器にマメなどの植物種子や昆虫が混入している事例が多数報告されるようになりました。また、具体的な植物名がわかるため、縄文人がどのような植物を利用していたのかもわかり、縄文時代のイメージが大きくかわりました。

水子貝塚では、多量の種子の圧痕が残る土器片が数多く確認されました。クリ、クヌギ、クルミなどの木の実は出土していましたが、わずか数ミリの種子は確認できていませんでした。これは圧痕レプリカ法でなければわからない事実です。



土器圧痕採取の様子



多量圧痕土器片

確認された種子は、シソ属（シソ・^{紫蘇}・^{荳蔻}・^{胡椒}・^麻）が多く、ニフトコなどの種子もありました。シソ属の種子は現在のシソよりは大きくエゴマに近い大きさでした。

シソは放任栽培でも育つのにに対し、エゴマは人為栽培が必要なものであり、これは定住して比較的安定的な集落が形成されていたことで、利用されていた可能性が高いそうです。シソ属の果実や葉は、油あるいは味・香りを添加する調味料としての用途があったと想定されています。また、他の遺跡からはクッキー状の食べ物に果実を混ぜ込んだ資料が見つかったり、油は漆製品の製作にも用いられた可能性が推定されています。

シソ属の栽培がこの時期では普遍的なのか、それとも水子貝塚特有のものなのか、地域的なひろがりや時間的な幅など、まだ多くの謎も残されています。

縄文土器に残された圧痕の観察や研究がさらに進展すれば、縄文人の具体的な植物利用の様子がより鮮明となることでしょう。



圧痕（直径約2mm）



圧痕のレプリカ



展示室7千百科 Vol. 5 打越遺跡出土の押出型石匙

打越遺跡から、関東地方では珍しい、押出型石匙が出土しています。

押出型石匙とは、槍先に似た形をしており、基部につまみがあるのが特徴です。名称の由来は山形県の押出遺跡で、押出型石匙がたくさん出土することで知られます。縄文時代前期に主に東北地方で製作され、つまみを手で直接持って、使用したと考えられています。また、石器の使用痕分析から、イネ科の植物の切断に使用されていたと推定されています。

打越遺跡の押出型石匙は、先端部は欠損していますが、現存長 6.1 cm、幅 2.1 cm、厚さ 0.9 cm、重さ 4.32 g で、刃部付近には再加工されたような痕跡があります。

石材は東北地方で採取できる頁岩を使用しており、また関東地方ではみられない技法を用いて製作

されていることから、東北地方からの搬入品であると考えられます。

関東地方以西から出土した押出型石匙は、再加工されながら、長期間にわたって大切に使用されていたと推定されています。これは、威信材として保持されていたためではないかと考えられています。



第9期 ふじみジュニア考古学クラブ開催

10月16日から始まったふじみジュニア考古学クラブでは、全5回の講義で考古学を学び、歴史と対話する面白さを伝えています。

毎年初回の講義は「考古学入門」として、考古学研究の最前線に立つ先生をお招きしています。今年は、明治大学黒耀石研究センターの栗島義明先生に、まが玉についての講義をしていただきました。まが玉の名前や形の由来、縄文時代のまが玉の特徴、埼玉県とのつながりといった話を聞き、実際にまが玉に使用された石材に触れてみるなどの楽しい内容でした。

12月12日(日)からは、今回のクラブ活動の成果をまとめた「第9期ふじみジュニア考古学クラブ研究発表展」を開催しています。

パネルの位置決めや拓本・土器片の設置など展示作業は受講生が行い、全5回のまとめと、これまでに学んだこと、土器のスケッチ、拓本、自分で作った土器などを資料館展示室に展示しています。

子どもたちの学習成果をぜひこの機会にご覧ください。



第1回 考古学入門



第2回 遺跡のある場所を探してみよう



第3回 発掘資料を研究しよう



第4回 縄文土器を作ってみよう



第5回 研究成果を展示しよう



研究発表展